

# 親潮

北水同窓会誌

2024

324

No.2

第324号  
令和6年度 第2号

OYASHIO

北水同窓会のEメールアドレスです

[hokusualumni@gmail.com](mailto:hokusualumni@gmail.com)

ホームページアドレスです

<http://hokusui.net>



## 特集 北水の今

### 特集 北海道大学総合博物館分館 水産科学館の歩み

- 北大150周年記念事業
- 次回総会案内
- 退職教員あいさつ
- 支部会・クラス会報告
- 追悼
- 学位取得者
- 会員の異動
- 新しい「北水同窓会名簿」の御紹介
- ほか

# 親潮

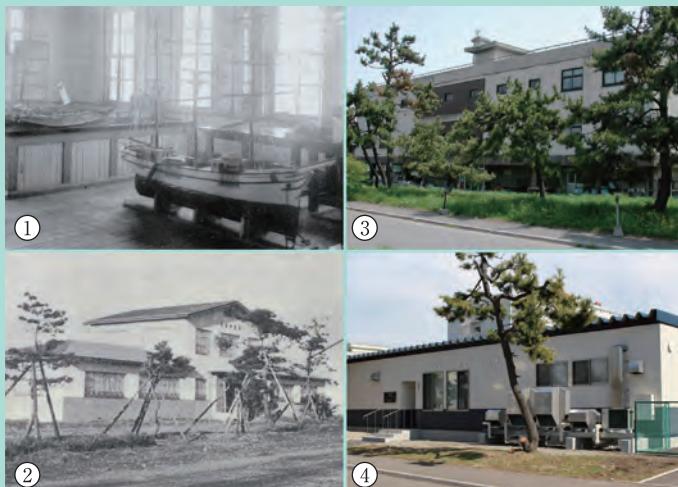
第324号  
令和6年度 第2号  
OYASHIO

## CONTENTS

同窓会定期総会案内	3
北大150周年記念事業	4
<b>特集 北水の今</b>	
<b>特 集 北海道大学総合博物館分館 水産科学館の歩み</b>	5
今村 央(昭63才)	
退職教員あいさつ	10
関 秀司(昭57才)	
支部会・クラス会報告	11
宮城県支部令和6年度総会 茨城県支部令和6年度同窓会 第64期(昭和49年3月卒業)水産増殖学科卒業生のつどい 北水同期会around昭和52年入学～昭和56年卒業 北水同窓会大阪府支部 令和6年総会報告 2024年度北水同窓会大阪府支部 新人歓迎シンバ開催	
追悼	17
後藤 晃氏(昭45才)／魚住 昭文氏(昭52才)	
新しい「北水同窓会名簿」の御紹介	19
会員死亡通知	20
学位取得者	22
会員の異動	22
親潮投稿規定・編集後記	22

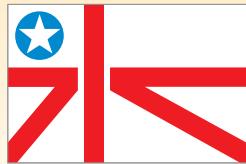
### 親潮324 表紙写真の説明

- ①水産講堂の標本室
- ②水産科学本館(1960年頃撮影)
- ③水産生物標本館  
(2003年5月20日撮影)
- ④水産生物標本館  
(2016年7月5日撮影)





# 第103回(2025年) 北水同窓会 定期総会



今年は大阪で開催!北大ホームカミングデー(HCD)は9月27日(土)に函館開催を計画中!

初春の息吹が感じられる季節となりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか?

今年は2025年5月に、万博が開催される大阪で総会を開催することになりました。

大阪開催は6年ぶりです。久しく合っていない同窓と申し合わせて、揃って参加しませんか?

また新卒者の皆様は、新しい職場の様子などの情報交換をしませんか?

多数のOG・OBの皆様のご参加をお待ちしています。

## 開催案内

日 時 ● 2025年5月17日(土)

会 場 ● 中之島センタービル うおまん

### 2F 大宴会場

大阪市北区中之島6-2-27

電話 06-6445-1977

最寄り駅 中之島(京阪電車中之島線)下車 徒歩3分

地下鉄千日前線 阿波座駅 徒歩7分

地下鉄中央線 阿波座駅 徒歩7分

受 付 ● 16:30~17:00

本部総会・講演 ● 17:00~18:00

(講演:北大水産科学研究院長 都木靖彰先生)

懇親会 ● 18:00~20:00

会 費 ● 8,000円

会費は当日徴収させていただきます。

申し込み締め切り日 ● 4月30日(水)



### お申込み先

北水同窓会大阪支部HP <https://hokusuiosaka.net/> のフォーム入力をご利用ください(QRコードから入力できます)。

入力できない方は、メール、FAX、郵送でお申し込みください。

Eメール:info@hokusuiosaka.net FAX:06-6343-3736(北大会館電話共通)

郵送:〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目2番2-200号北大会館内 北水同窓会大阪府支部あて

FAXまたは郵送にてお申し込みの場合は、このページをコピーして送信用紙としてお使いください。

-キリトリ線->

<-キリトリ線-

### 〈北水同窓会大阪府支部あて〉

## 第103回 北水同窓会 定期総会 参加申込書 (1名毎に記載願います)

<https://hokusuiosaka.net/> のフォーム入力をご利用ください(QRコードから入力できます)。

入力できない方は下記に記入し、郵送、FAXまたは同じ内容をE-mailにてご連絡願います。

ふりがな	卒年度、学部学科(卒年は西暦でお願いします)	所属等(任意)
お名前 (必須)	年	
ご住所(任意) 〒( - )		
電話(任意) ( ) E-mail(必須):		
参加形式(必須、お選びください) 右記の□に✓をお願いします	<input type="checkbox"/> 現地参加 <input type="checkbox"/> オンライン参加 <input type="checkbox"/> 欠席 (大阪支部の方は欠席される場合もご記入ください)	
その他伝達事項(任意)		

# 北大150周年記念事業

北海道大学は、1876年開校の札幌農学校から、帝國大学、新制国立大学の時代を経て、2026年（令和8年）に創基150周年を迎えます。150年に及ぶ歴史の中で、「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」及び「実学の重視」という四つの基本理念を建学の精神として掲げ培ってきた本学は、力強い発展を遂げて参りました。

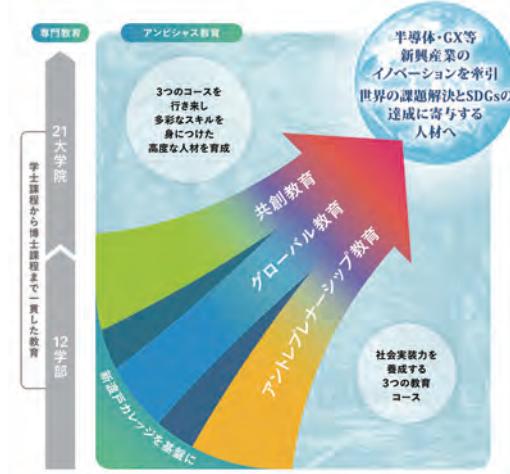
2026年は、創基150周年の記念すべきマイルストーンの年として、また、唯一無二の「比類なき大学」として、世界の課題解決に貢献する大学を目指す、次の150年のスタートにもなります。

本学では、「光は、北から（北から新しい世界を作っていく）」を合言葉に、「創基150周年記念事業」の取組を進めております。

## ■人材育成事業「イノベーション・フロントランナー」の育成

「学びを、キャンパスから外へ、地域社会や世界のフィールドへ広げる」をコンセプトに、もっと学びたい、研究したい、視野を広げたいと願う学生に特別な教育を提供します。

新渡戸カレッジの精神を受け継いだ新たな教育プログラムをスタートさせ、大学単独ではできない教育を企業のご支援を得て実施し、地域社会や世界をフィールドにしたアンビシャス教育を展開することで未来社会の開拓者（イノベーション・フロントランナー）を育成します。



## ■「こども本の森」事業

世界的建築家の安藤忠雄氏が、設計・建築費を自ら負担して自治体等へ寄附している子ども向けの図書施設「こども本の森」を札幌キャンパス内に寄贈い

ただきます。

「こども本の森」には、読書の時間と空間を提供することによって、こどもたちに無限の想像力や好奇心を育んでほしいという安藤氏の想いが込められています。

本学では、自然豊かな環境の中で、こどもたちが自分だけの大切な一冊と出会い、新たな世界に触れられるよう、サポートします。



こども本の森 神戸（撮影：岩本順平（DOR））



こども本の森 中之島（撮影：いとう写真）

## ■古河講堂の改修・利活用事業

本学は、1906（明治39）年に古河家から施設整備費の寄附を受け、教育設備が充実したことにより、前身の札幌農学校から大学に昇格した歴史があります。それらの施設の大半は解体撤去されましたが、唯一現存する古河講堂は国の登録有形文化財として保護されています。

本事業では寄贈当時の古河講堂を復元し、SDGsの達成やDEI推進に取り組む北海道大学を地域に伝える「場」として利活用します。

これら事業を進めるため記念募金を創設しておりますので、ぜひとも多くの皆様のご賛同ならびご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 北海道大学総合博物館分館 水産科学館の歩み

## — その設立経緯から水産科学未来人材育成館ができるまで —

今村 央(昭63ゾ)水産科学研究院・総合博物館分館 水産科学館館長

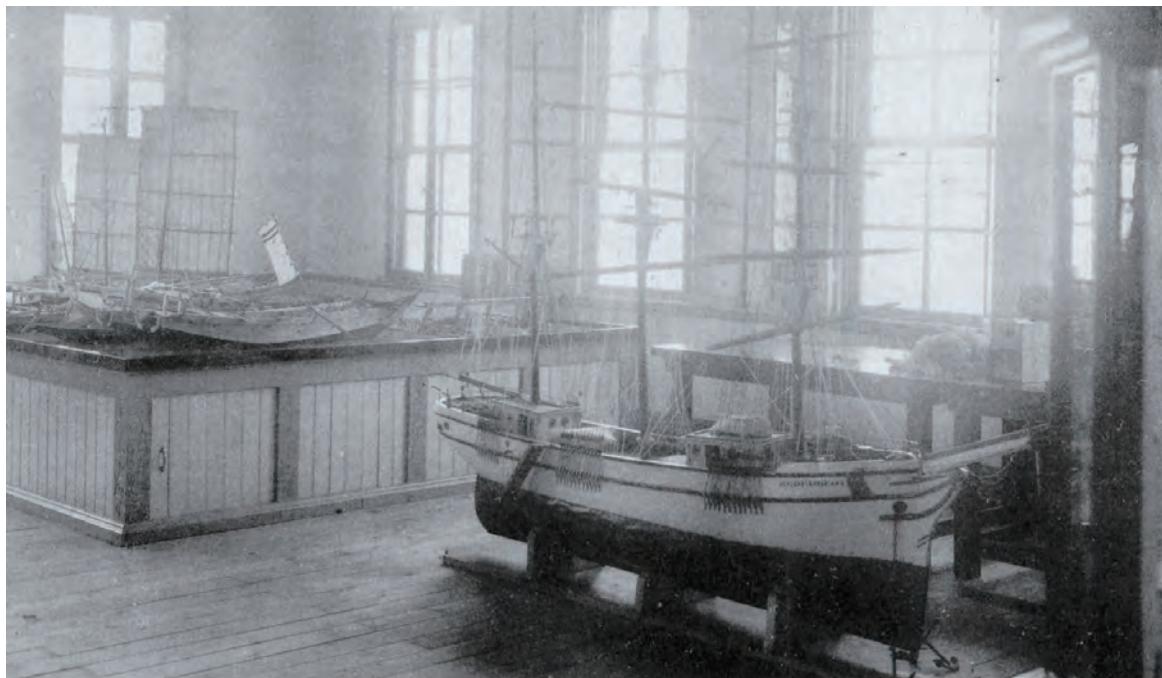


図1 水産講堂の標本室(東北帝国大学農科大学時代に撮影)。水産講堂は1907年7月に現在の北大農学部本館正面に向って左側に建設されました。この写真には1908年に小樽市で開催された水産共進会に出品された和船模型(左側の模型群)などが撮影されています。これらの和船模型は現在も水産科学館で展示されています。

2024年10月に水産科学未来人材育成館(以下、未来人材育成館)の運用が開始されました。未来人材育成館は博物館(Museum:M)・図書館(Library:L)・アーカイブ(Archive:A)を連携(MLA連携)させた多機能型の複合施設で、博物館として総合博物館分館の水産科学館がその機能の一端を担っています。筆者は総合博物館の教員として1999年度から2008年度までの10年間、および水産科学館館長として2016年度から現在までの約9年間の、合計約19年間にわたって水産科学館と深く関わり、近年では同館長として未来人材育成館の概算要求の申請や運用準備などに携わってきました。未来人材育成館の概要については、元図書委員会委員長として澤辺智雄教授(平元食)が「親潮」第320号で詳細にご説明下さいましたので、今回は水産科学館館長の立場から、未来人材育成館の運用開始にちなみ、水産科学館の設立の経緯から未来人材育成館ができるまでの歩みを紹介したいと思います。

北海道大学水産学部は1907年に札幌農学校水産学科として設置されて以来、北海道、樺太、ベーリング海などの北方海域や河川に生息する水棲生物、1908年に小樽市で開催された水産共進会、1919年に札幌市で開催された開道50周年期年共進会に出展された水産関係の品々などを収集してきました。札幌市で教育を行っていた東北帝国大学農科大学水産学科時代と東北帝國大学附属水産専門部時代には、それらは水産講堂の標本室に展示されていました(図1)。また、1935年に函館市に移行し、函館高等水産学校となった際には、校舎正面玄関の2階に標本室、および北洋漁業関係資料を集めた北洋室を設置しました。しかし、1945年の終戦後に校舎は進駐軍の兵舎として接収され、校舎返還後も経済混乱や入学者の増加のために校舎が手狭となり、展示・収蔵スペースが復元されない状態が続いていました。そのような状況下、北大水産学部の創基50周年にあたる1957年に、北水同窓会の創基50周年記念事

業として標本展示施設の建設・寄付が決定され、1958年7月に水産博物館が函館キャンパス内に開館されたのです（図2）。

水産博物館の名称は博物館法上の博物館に該当しないという理由から、1964年に水産資料館と改められました。1982年の水産学部創基75周年には、北水同窓会が母体となった創基75周年記念事業後援会が、水産学部の歩みや歴史的資料を展示するための附属建物を建設・寄付することを決定し、1983年3月に水産資料館別館として開館しました。さらに1988年には、大洋漁業株式会社から1960年に寄贈され、北洋水産研究施設（通称・北洋研）で使用していた北洋水産研究館が改装され、水産資料館附属の水産生物標本館として整備されました（図3上）。

1999年4月、北海道大学に総合博物館が設置され、水産資料館は機能的には総合博物館の機構下に入りました。総合博物館との連携をより強固なものとすべく、2003年に水産学部から総合博物館長に分館化の要望が提出されました。2005年には総長から分館化の許可がおり、水産学部創基100周年にあたる2007年の4月に水産資料館は総合博物館に正式に移管されてその分館ととして位置づけられ、それに伴い名称が現在の水産科学館（英名：Fisheries Science Center）に変更されました。

水産科学館本館はコンクリートブロック造で、製耐震性が極めて脆弱で危険な建物であったため（実際、本館は老朽建物扱いとなり、2015年12月から立ち入りが禁止されました）、水産科学館の展示公開スペースの充実を図るために、新たな展示施設の建設が急務でした。また、水産生物標本館も築50年以上を経過し、老朽化が顕著で、2011年の耐震検査で「緊急度ランク1」の判定を受け、耐震上極めて危険な状態にありました。さらに、魚類標本だけでも当時すでに20万点を超えており、建物の標本収容力はすでに限界に達していました。そのような状況下、総合博物館は2010年に本館と水産生物標本館を合わせ、展示・標本収納スペースなどを備えた新水産科学館の建設計画を立案し、2012-2014年度に概算要求（推定約5億円規模）として文部科学省に申請しました。この概算要求は3年間

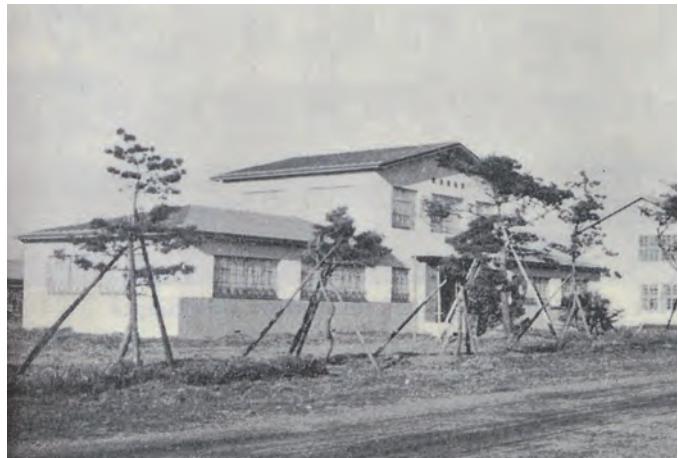


図2 水産科学本館（上：1960年頃撮影、下：2007年4月24日今村撮影）。老朽建物扱いとなって2015年12月から立ち入りが禁止されていた本館は、竣工した未来人材育成館に資料を移設した後に速やかに取り壊され、現在その姿はありません。

認められなかつたため、これを北海道大学の学内事業として検討することとし、2015年2月に博物館水産分館整備工事（約1.8億円規模）が認められることとなりました。しかし、当初の予定より予算規模が大幅に縮小され、展示スペースと標本収蔵スペースは両立できなくなってしまったため、大学博物館として学術標本の保管環境の整備の重要性を優先すべきと判断し、認められた経費により水産生物標本館のみを新設することとなりました。新たな水産生物標本館は2016年2月に竣工しました（図3下）、標本が機能的に収蔵できるようになっただけでなく、標本作製スペースも充実し、標本館としての機能が格段に向上しました。しかし、水産科学館本館に代わる展示施設の新設は課題として残されることになりました。



図3 水産生物標本館(上:2003年5月20日今村撮影、下:2016年7月5日今村撮影)。  
上の写真は旧北洋水産研究館で、2015年に取り壊され、その跡地に下の写真の現在の水産生物標本館が建設されました。

この課題を解決するため、総合博物館は2016年に「水産科学館展示施設ワーキンググループ」を立ち上げ、協議を行いました。その結果、本館新設が理想だが、昨今の大学の予算状況からは展示施設の新設は極めて難しいと考えられるため、予算状況が回復し、本館が新設できるようになるまでは、本館と分館の展示資料を見直し、別館のみで本館の資料も取り込んだ全体的な展示を展開することを計画しました。さらに本館の資料のうち、別館での展示に使用しないものは他の場所へ移動させて本館を空の状態とし、いつでも取り壊せるようにし、別館の資料で使用しないものも他の場所へ移設し、効率的な展示を行うこととした。移設場所の候補となったのは函館キャンパスの講堂です。講堂のステージは音楽系のサークルがライブ等で使用するため、後ろの2/3のスペースを使用することとなりました。しかし、移設にかかる費用を見積もった結果、非常に高額で簡単には捻出できないことが分かったため、実行不可能と判断せざるを得ず、計画は振り出しに戻ることとなりました。2018年には大学施設部とも相談しつつ、改めて展示施設を新設することで申請書を準備し、2019年2月に概算要求を申請しましたが、これも採択されませんでした。展示機能だけでなく、学芸員実習や学生ボランティア等の育成、学生実験や授業での利用、学内外向けの多様なプログラムの実施など、教育・研究等での利活用も盛り込んだのですが、この申請に対して高い評価は得られなかったのです。

そのような中、2019年11月頃に大学施設部から、博物館（M）と図書館（L）を連携（ML連携）させた施設で申請してみては、との助言を頂きました。水産学部図書館も、保有水平体力に係る指標が基準値を下回る、書架の集密化を図るために大規模な構造補強を行う必要がある、エレベーターや多目的トイレがなく、非バリアフリーの状態であるなどの問題があり、新設が強く望まれる施設でした。しかし、こちらも2019年2月の概算要求では採択されず、再度申請する必要がありました。博物館と図書館では扱う資料に違いはありますが、どちらもそれらを収集・蓄積・提供する点で機能的な共通性があります。また、両者の複合

施設化は極めて利便性がよく、学生や一般の利用者からも歓迎されるものとなるはずです。この提案は博物館側としては「渡りに船」の大変ありがたいものでしたが、図書館側がどのように考えるかが気がかりでした。概算要求の評価は図書館の方が博物館より高く、博物館が図書館の足枷となる可能性があり、図書館に迷惑をかけてしまうかもしれないという申し訳なさや、そもそも受けられないかもしれないという心配もありました。しかし、幸いにも図書館からもML連携の合意が得られ、以降は図書館と協力して概算要求に向けて申請書の準備を進めることとなりました。

2020年1月にML連携初の概算要求を申請しました。この時は不採択に終わったのですが、ここからさらに関係する教職員で知恵を絞って次の申請に向けてブラッシュアップしていきました。例えば、ML連携にさらにアーカイブ（A）を加え、Society 5.0世代の教育研究に資するMLA連携複合施設へ改築し、キャンパスのイノベーション・コモンズ（共創拠点）化を実現することなどを計画に加えるなど、MLA連携を謳いつつ、様々な機能と魅力を盛り込み、これまでの北大にはない斬新な施設の申請書を完成させました。なおこの申請書から、施設の名称（仮称）として、現在も使われている「水産科学未来人材育成館」が用いられています。

この申請書は2021年1月に提出され、2月にヒアリングが実施されました。そしてついにこの計画が採択されることとなり、2022年度当初に施設整備費補助金の交付が決定されたのです。元図書委員会委員長の高津哲也教授（昭63ギ）と澤辺智雄教授、水産科学研究院の山下俊介特任准教授、総合博物館の田城文人助教（平18生）をはじめ、北大施設部、函館キャンパス佐藤哲生元事務長、同營繕・図書担当、総合博物館担当事務など、多くの教職員のご尽力により、2010年の新水産科学館の建設設計画の立案から10年以上の年月を経て、博物館展示スペースを備えた「水産科学未来人材育成館」の建設が実現することとなりました。そして事前に取り壊された旧図書館の跡地に未来人材育成館は2023年から2024年にかけて建設され（図4）、2024年10月に開館し、現在に至って

います。

以上、設立経緯から未来人材育成館ができるまでの水産科学館の歩みをかいつまんでご紹介しましたが、最後に現在（2024年12月）の水産科学館の展示活動についても述べさせて頂きます。

2024年10月の開館に合わせ、博物館資料も水産科学館本館と別館から未来人材育成館3階に移設されました、展示は未完成の状態です。時間がない中で急いで中途半端な展示を行うのではなく、必要な時間をかけてより充実した展示を開館することとしたためです。とはいえ、開館時から一般公開（プレオープン）は行なっており、通常はあまり見ることのできない展示準

備中の状態を見学いただけます（開館日時等の詳細は <https://www2.fish.hokudai.ac.jp/facilities/museum.html> をご覧下さい）。現在、水産学部の広報等を担当するパブリック・リレーションズ委員会を中心としたワーキンググループで水産学部関連の展示を準備中で、ここでは学科単位で代表的な研究を紹介します。これは従来の水産科学館にはなかった展示です。2025年4月に完成した展示をリニューアルオープンする予定ですので、北水同窓会の皆様におかれましては、ぜひ「水産科学未来人材育成館」にご来館下さい。



図4 未来人材育成館の建設風景。管理研究棟3階西側の非常階段口から2023年8月-11月に今村撮影。

# 退職教員あいさつ



## 退職のご挨拶

関 秀司（昭57化）

私は東京タワーと同じ歳の昭和33年生まれ。窓から姫路城が見える病院で生まれたそうです。父が国家公務員だったので、徳島、大阪、奈良、香川と転校を繰り返し、昭和52年に北大に入学しました。その後も父の転勤は続き帰省先はいつも見知らぬ土地、その両親も18年前に函館に移住したので、私には故郷や幼馴染というものはありません。あえて言うなら、45年間を過ごした函館が故郷、そして北水の同窓生が幼馴染なのかなと思っています。

1982年に大学院に進学、博士後期課程に在籍中の1985年度に大学教員として採用され、2023年度をもって無事に退職、名誉教授の称号もいただきました。さて、この1985年度と2023年度という数字を見てピンときた人、あなたは阪神ファンですね。そうです、これは阪神タイガースが日本一になった年です。つまり、私が大学教員として採用されたこと、そして無事に退職できたことは、阪神タイガースが日本一になるのと同じぐらいレアなことなのでしょう。昨年の初冬にメディアが繰り返した「阪神、36年ぶりの日本一！」というフレーズのおかげで、勤続年数を計算する必要がありませんでした（笑）。

退職の日が近づくと、しばしば「退職後は何かお仕事をなさるのですか？」と聞かれました。私自身、ボケ防止も兼ねて退職後も何か仕事をしようかと思ったこともありました。恩師の鈴木翼先生が退職後10年経たずしてお亡くなりになったこと、また、日本男性の平均健康寿命が70.4歳であることを知ってからは、「定年後は仕事なんてしている場合じゃない。身体が動くうちに思い残すことなく遊ぶぞ～。」と思うようになりました。

ただ、8年前に脳梗塞で倒れた父が半身不随になって市内の介護施設に入居しているので、しばらくは函館を

離れての旅行はできませんが、自分が認知症になって「徘徊」する前に、大好きなバイクで全国を「放浪」しようと企んでいます。ホテルでのショートステイではなく、行く先々でウィークリーマンションに滞在し、その土地をのんびりと楽しみながら旅を続けられたら最高だと夢を馳せています。

ということで、同期、後輩、教え子の皆さん、いつあなたの住む街に出没するかわりません。決して油断しないでください。しかし、不幸にも出会ってしまった時は、いさぎよく諦めて温かく迎えてやってください。邪険に扱うと崇ります。ビール一杯で大人しくなるはずなので、よろしくお願いします。

とりとめのない文章を書き連ねてお恥ずかしい限りですが、何とか同窓会が指定した字数に達したようです。それでは、末筆ではありますが、皆さまのご健勝と北水のさらなるご発展をお祈りしつつ、そろそろ筆を置きたいと思います。最後までお付き合いいただき、ありがとうございました。

なんて原稿をそろそろ同窓会事務所に送ろうかと思っていた矢先、6月29日に函館市内を走っていた私のバイクに個人タクシーが衝突し、脳梗塞、硬膜下出血に加え鎖骨と肋骨骨折で新都市病院に搬送され、7月23日にやっと退院できました。幸い私の過失責任はゼロだったので入院とバイク修理の費用はゼロでしたが、一番いい季節を病院で過ごすことになってしまいました。「邪険に扱うと崇る」なんて書いたせいかもしれません。これからは、もっと謙虚に余生を過ごしたいと思っています（笑）。

## クラス会 報告

### 北水同窓会宮城県支部令和6年度総会が2年ぶりに7月27日(土)に ホテル白萩(仙台市)において開催されました。

君島 祐介(平26海生)



北水同窓会宮城県支部令和6年度総会が令和6年7月27日に仙台市において二年ぶりに開催され、13名が出席

しました。

総会では、小池幾世支部長(昭53ギ)から挨拶があり、事務局から延期となっていた令和4年度から令和5年度の収支決算、若手役員の追加も含む役員改選の議事が提案され、すべて了承されました。

懇親会では、石田信正先輩(昭32ゾ)の乾杯の音頭で開会となり、各出席者から近況報告が行われました。

今年も同窓会先輩方の元気なお顔を拝顔でき、また、この二年間の近況を互いに報告するなど懇親を深めるとともに、世代を超えた思い出話に花が咲き楽しいひとときを過ごしました。

最後に、佐伯光広幹事(平元ギ)の前口上で「都ぞ弥生」と「水産逍遙歌」を全員で歌い、来年度の再会を約束し散会となりました。

### 北水同窓会茨城県支部令和6年度同窓会の開催

根本 孝(昭63ゾ)



前列左から、根岸正美(昭50化)、田中弘太朗(昭52ギ)、渡辺一夫(昭47ゾ)、山崎耿二郎(昭40ゾ)、大沢直幸(昭47ギ)、高島葉二(昭51ゾ)、後列左から、大川雅登(昭53ギ)、根本孝(昭63ゾ)、久保田次郎(平2ギ)、東剛己(平6化)、小松伸行(平5ゾ)、工藤怜子(平26海生)、水谷宏太(平30海資)、飯野菜帆(令6増生)

北水同窓会茨城県支部の令和6年度同窓会が、秋晴れのもと令和6年11月9日(土)午後3時から、県都水戸市、水戸駅前の三の丸ホテルにて開催され14名の同窓が集まりました。実に前回開催(令和元年11月23日同会場にて)から5年ぶりの、コロナ禍による諸々の自粛の時代を経ての会合となりました。

まず総会として、支部長渡辺一夫氏(昭47ゾ)のあいさつの後、幹事長大川雅登氏(昭53ギ)の司会の下、支部長が議長となり、支部役員について審議となりました。慎重審議により、5年前に改選選出された役員全員の留任案が承認され、今年度も支部役員は支部長渡辺一夫、副支部長別井一栄(昭50ギ)、幹事長大川雅登、幹事根本孝(昭63ゾ)、同久保田次郎(平2ギ)、同東剛己(平6化)同横山耕平(平18生)の各氏となりました。

続いて懇親会となり、前支部長の山崎耿二郎氏(昭40ゾ)の乾杯の発声により宴がはじまりました。出席者全員からは近況報告や、本学や北水時代の思い出などが披露されたほか、また今回はこの春大学院を修了して初めて茨城に就職したほやほやのOGの出席もあったことから、出席者からはすっかり新しく変わった今の学科名への質問などが寄せられたり、皆さん各テーブルを回るなどしてあちこちで話題が尽きませんでした。

盛り上がった宴もお開きが近づいたところで、宴のメとして全員でスクラムを組み、不肖根本が前口上の音頭をとり、会場いっぱいに響く水産放浪歌の大合唱となりました。年配OBをはじめ出席者は皆、このひとときに存分に北水ばなしに花を咲かせ、また水産放浪歌の高吟から

心地よい活力を得たようで、和氣あいあいのうちに名残を惜しみつつ散会となりました。その後は、まだ少々、呑み語り足りなさそうにしていた多くの有志で夕暮れの駅前の赤ちょうちんで2次会となりました。そこで次の開催時期はしっかり決めたほうがよいのではないかとの声があったことから、では2年後に開催と

しましようとまとまり目標の明確化が図られました。次回の茨城県支部同窓会への茨城在住、在勤の諸兄多数のご参加をお願い申し上げまして報告いたします。

## 第64期(昭和49年3月卒業)水産増殖学科卒業生のつどい

西 健一郎(昭49ゾ)



激動の昭和45年(1970年)4月23日、入学式もないまま教養部の教室に集った学年だが50有余年の時を経、令和6年10月2日、札幌ガーデンパレス会場に20名集まることができた。卒業後、函館ですでに何度か同期会を開いている。前回の同期会(札幌)からは10年ぶり。今回はふたたび、教養時代の思い出も残る札幌での同期会となった。この会の準備には幹事の武内君・松尾君が早くから尽力してくれた。感謝したい。まずは開始にあたり、すでに鬼籍に入られた級友6名の冥福を祈る。日置君の司会進行。小原君の開会挨拶。高石君の謡曲「高砂」の謡も加わり乾杯。この日、50年ぶりに顔を合わせる友も多くいたが、その後はお互いの積もる話に花を咲かせ、ビールや有志持参の各地の銘酒に料理を楽しみながら歓談する。

銀行、道庁、県庁、市役所、民間企業、大学・高校などの教育機関、議員などいろいろな分野で活躍した同期生の50年の歩みの語りは興味深かった。皆すでに70歳を過ぎ、多くは仕事も最前線からは離れ、悠々自適の日々を過ごしているものと見受けられる。この日は学生時代そのままの青春の日の顔に還っていた。時はあっという間に過ぎる。この日、道外からは遠く福岡の太宰府市、兵庫県神戸市ほか東京、神奈川、千葉他全国各地からの参加を得た。

同期各位の出身地は、北大らしく道外勢が半数を超えた

。クラーク博士の"Boys be ambitious!"にあこがれて北海道にやってきた友も多く、卒業後もそのまま北海道にとどまった者数多あり。そして会も酣のころ、各自の所属講座単位で、それぞれの50年間の来し方や卒業後の積もる思いを披露する。宮城の高橋君はシナイモツゴの保全活動で先進的に活動を継続され、その活動の様子も披露される。札幌の殿山君は視覚障害者の活動で日視連から表彰を受けた。紅一点参加の川端さんは議員活動をしながらの子育ての苦労話を披露された。

各人制限時間を超えて語るうち、アッという間に時は過ぎた。卒業後、何度かの同期会は節目々で開いてきたが、この集まりが最後のものになるかもしれない。予定していた3時間は知らぬ間に過ぎ、最後は最長老小笠原君の発声で一次会を締めくくる。話し足りない面々は皆、2次会へと移動しさらなる盛り上がりを見せた。さてこの再会の興奮で話に夢中になり北大の集まりにはつきものの"都ぞ弥生"と"水産放浪歌"の齊唱をそろそろやろうと何度か言いながら失念してしまった。しかしながら同じ釜の飯を食ったとでもいうべき一体感から、きっと皆の胸の内には"都ぞ弥生"と"水産放浪歌"をバーチャルで歌った記憶が形成されたのではないかと思われる。

同期各位も、個々の仲間うちではSNSで連絡を取り合っていた。この集まりも主にメール・LINEで連絡をとり、こうして一同がつながることができた。今回参加できなかったが、現役時には環境行政にかかり現在コスタリカでコンポスト普及活動に邁進中の杉本君や長野県在住で卒業後銀行マンとして活躍した応援団出身の宮坂君、釧路博物館にいた針生君、直前の体調不良で参加を断念した磯谷君等々へ、この会の様子を報告すること幹事に託し、機会があればまた再会しようと誓い、会は無事に終えた。

Old boys be ambitious!

## 北水同期会around昭和52年入学～昭和56年卒業

林(村松) 潤子(昭56ゾ)



参加者名簿(敬称略)ギ漁業 シ食品 カ化学 ジ増殖

(後段5列目左4人目から)シ 西側、ギ 辰巳、ゾ 佐藤、カ 種田、ゾ 濱田、カ 山川、カ 小山内、カ 角館

(4列目左から)ギ 大西、ゾ 池津、シ 水沼、ギ 下田、ゾ 藤田、カ 菊繁、カ 最上、ゾ 鈴木

(3列目左3人目から)シ 河北、シ 中村、ギ 山脇

(2列目左から)ゾ 石井、ギ 武田、ゾ 斎藤、ギ 川村(三上)、ゾ 高橋、カ 久保田

(2列目中央から)カ 金沢、シ 渡辺、ギ 山田、ゾ 小山

(最前列左から)ギ 小野寺、ゾ 新川(館)、ゾ 林(村松)、カ 高橋(安藤)、カ 伊東(井形)、カ 松原(伝法)、シ 柳田(加我)、カ 菊繁(小泉)、ゾ 中村(谷澤)、カ 北岡

今回の世話人／(女子学生)館、谷澤、井形、村松 (男子学生)濱田、石井、斎藤、池津

2024年9月28日札幌で、ホームカミングデーの日程にあわせ、「北水同期会around昭和52年入学～昭和56年卒業」というテーマで、ほぼ同時期に学生生活を送ったメンバーが集まって同期会を実施しました。

今回の趣旨は、「そろそろ65歳で第二の職場もリタイヤの時期、また卒業後約40年も過ぎたので、初めてみんなで集まろう」ということで、同窓会名簿をもとに声をかけると、約40名のメンバーが、遠くは大分県など、全国から集まってくれました。

当日はプレ企画として、本学の企画とは別に、参加者11名で「キャンパスツアークラ館集合～北18条教養部～恵迪寮跡地～工学部裏農場～ポプラ並木～総合博物館(理学部本館)水産学部コーナー解散」で約40年前の学生生活を懐かしんでから、札幌グランドホテルに集まりました。

同期会の冒頭では、早くお亡くなりになった21名の方々のお名前が読み、ありし日の姿を偲びました。続く自己紹介では、今まで、そして現在の様子が話題に。仕事や趣味のこと、そして健康のために積極的に体を動かしていることなどが語られましたが、家族のために家

事をしています!というお話も意外に?多くありました。まだまだ現役の方、悠々自適の方、それぞれそのお話から充実感が伝わってきました。

その後の歓談では、久しぶりすぎて名前と顔が一致せず、最初は名札が必要でしたが、すぐに、ほぼ半世紀の時間をこえて学生時代に戻り、昔話に花を咲かせていました。

最後は「永遠の幸」「都ぞ弥生」の合唱で同期会を締め、次に近隣のイタリアンバルでの二次会へ。また、翌日の函館水産学部のホームカミングデーにも5名参加しました。

今回の同期会では、ある方の「今まで色々なことがあったけれども、『生きてるだけで丸儲け』と思って、なるべく余計なことは考えず、日々前向きに過ごそうと心がけています」という言葉が印象的でした。みんなで、お互い健康には気をつけ、いつかまた再会することを約束しました。

## 北水同窓会大阪府支部 令和6年総会報告

中田 邦彦(昭61食)



参加者(敬称略)

吉川 圭一(昭44工)、入江 和彦(昭45ギ)、久保田 幸一(昭45化)、山仲 春男(昭46食)、島田 好彦(昭47ギ)、藤田 信良(昭48ギ)  
室井 智子(昭50食)、中川 武司(昭50ギ)、大村 泰治(昭51食)、玉置 純(昭51ギ)、中 進作(昭53化)、石田 浩平(昭54食)、北川 和郎(昭54ギ)  
丸山 清重(昭55ジ)、大橋 人司(昭56ギ)、佐々木 雅人(昭56化)、澤田 宣雄(昭57ジ)、横山 信一(昭58ギ)、青木 孝之(昭59ギ)、小林 光(昭59食)  
楠山 仁志(昭59ギ)、藤井 英嘉(昭61ギ)、中田 邦彦(昭61食)、荒谷 竜一(昭62ギ)、大滝 豊志(平元ギ)、小田 哲也(平4ギ)、若林 真由(平5修食)  
上出 貴司(平7ゾ)、堀越 光晴(平8ギ)、藤原 匠逸(平13生)、尾上 律子(平14資)、中村 拓真(平15シ)、宇野 陽子(平17生)、上田 鉄也(平20シ)  
櫻井 遥平(平19海生)、内田 廉(平21海)、梶原 慧太郎(平27海生)、服部 雄地(令2海資)、荒井 彩花(令6理)、小関 宏彦(昭61理)  
波多 勇(昭43農化)、田島 朋子(昭54獣医)、山田 勝重(昭53農化)  
(オンライン参加)佐藤 信光(昭57化)、都木 靖彰(昭59ゾ)、増村 友博(令3海資)

北水同窓会大阪府支部の支部総会が、令和6年11月16日(土)午後3時より大阪市中之島のうおまん中之島店で行われました。今回は、支部総会で初めて遠隔地からでも参加できるようにオンラインとリアルのハイブリッドで行われました。リアル参加44名、オンライン参加3名の47名の出席がありました。総会は、大橋支部長の挨拶のあと、事業報告、会計報告、事業計画、予算案、次期役員選出と通常の総会議事が滞りなく行われ総会が終了しました。次いでオンラインで、都木靖彰水産研究科長のご挨拶と北大の現在の近況をご説明いただき、母校がどのような活躍をしているかを知らせていただきました。休憩を挟んで、

財務副大臣の横山信一様に「伝統的工芸品の欧州展開」ということでご講演いただきました。伝統的工芸品とはどのようなものかということ、なぜ欧州で展開を進めているのか、これに対して国はどのような補助金を通じてどのような支援をしているか、工芸品単独でなく、農林水産物との一体的な輸出をつうじてイベントなどの広報活動を展開しているか、地方を巻き込んでどのような展開をおこなっているなどをわかりやすくご説明いただきました。

懇親会では、宇野陽子さんの司会のもと進められ、懇談の途中で、澤田宣雄 京滋支部長、梶原慧太郎 兵庫県支部長、丸山清重 和歌山県支部長、北大関西同窓会 田

島朋子副会長、(一社)北大会館 波多勇代表理事、札幌農学同窓会関西支部 山田勝重理事長のご挨拶がありました。

終わりには、全員で都ぞ弥生と水産放浪歌の合唱を行い、入江和彦顧問の終わりの挨拶で締めくくり終了しました。

なお、この様子の一部は、北水大阪のホームページ(<http://hokusuiosaka.net>)に動画とともに掲載しておりますので、ご高覧ください。

来年の5月17日(土)17時より北水同窓会総会を開催されますので、ぜひ大阪の地においていただければと思つ

ています。参加申し込みは、前述のホームページからよろしくお願い申し上げます。また、今回同様、オンラインでのご参加も受け付けておりますのでそちらの方もご利用ください。多くの方のご参加をお待ち申し上げています。

## 伝統的工芸品の欧州展開



財務副大臣 参議院議員 横山信一

### 「伝統的工芸品」とは

- ・主として日常生活の用に供されるもの
- ・その製造過程の主要部分が手工業的
- ・伝統的な技術又は技法により製造されるもの
- ・伝統的に使用されてきた原材料が主たる原材料として用いられ、製造されるもの
- ・一定の地域において少なくない数の者がその製造を行い、又はその製造に従事しているもの

上記5つの項目を全て満たし、伝統的工芸品産業の振興に関する法律（昭和49年法律第57号、以下「伝産法」という）に基づく経済産業大臣の指定を受けた工芸品のことといいます。

国が指定した伝統的工芸品241品目（2023年10月26日時点）

## 2024年度北水同窓会大阪府支部 新人歓迎ジンパ開催

北水同窓会大阪府支部 ジンパ実行委員 櫻井 遥平(平19海生)



なお、今回参加された方々は以下の通りになります。

伊藤 靖久(工・昭42)、波多 勇(農・昭43)、三津 正人(農・昭45)、山田 勝重(農・昭53)、小関 宏彦(理・昭61)、小関 友紀(中学生)、小関 夏海(小学生)  
山脇 啓輔(環院・平31)、入江 和彦(昭45ギ)、久保田 幸一(昭45化)、藤田 信良(昭48ギ)、大村 泰治(昭51食)、北川 和郎(昭54ギ)  
石田 浩平(昭54食)、大橋 人司(昭56ギ)、佐々木 雅人(昭56化)、楠山 仁志(昭59ギ)、小林 光(昭59食)、中田 邦彦(昭61食)  
藤井 英嘉(昭61ギ)、若林 真由(平5修食)、櫻井 遥平(平19海生)、森田 隆寛(平24増生)、桑山 周人(令4海資)、大羽 智之(令4海資) 敬称略

大阪府支部では、去る7月20日(土)に大阪市内の天王寺公園内にありますTHE BBQ GARDEN in てんしばi:na(イーナ)にて、今年もまた、森田隆寛(平24増生)ジンパ実行委員長のもと、学部または院を卒業され関西に来られた方への新人歓迎を兼ねたジンギスカンパーティ(ジンパ)を行いました。ジンパを行うのは、昨年の6月・11月に続いて今回で3回目でとなり、今年水産学部ご卒業の方2名の他、農学部など他学部出身の方やご家族連れの方の参加もあり、合計25名の方に来ていただき、盛大にとりおこなわれました。

メインの羊肉は、北海道の長沼町から数種類取り寄せ、大阪にいながら、懐かし北海道の味を皆で楽しむことができました。当日は、最高気温35℃に迫る厳しい夏本番の暑さにもかかわらずそれが気にならない程の大変盛り上がりとなりました。ただ、羊肉は、冷凍で持参しましたので、解凍に時間がかかりましたが、その間、参加者の皆さんにそれぞれ、簡単に自己紹介をしていただき、自己紹介が終わるころ丁度焼けあがり、舌鼓みをう

ちながら、会話が盛り上りました。終了時には、記念写真をとり、その後、会場前の芝生のところで、都ぞ弥生、水産放浪歌を歌い解散しました。

このジンパ参加者からのご意見は好評なので今後も継続していく予定でいますし、大阪府支部ではその他随時、イベントが行われています。堅苦しくなく参加しやすいものですので、ご興味のある同窓生がいらっしゃいましたら大阪府支部のホームページ(<https://hokusuiosaka.net>)などでチェックしてみてください。

みなさんのご参加をお待ちしております。

# 追悼寄稿

## 後藤 晃 先生を悼む（1947-2024）

酒井 治己（昭60博ゾ、水産大学校）



在りし日の後藤晃先生。2003年夏、成田空港にて。

後藤晃先生が2024年12月12日逝去されました。先生は、2020年パーキンソン病と診断されましたが、その後も普段の生活を続け研究・調査に励む毎日でした。しかし2024年夏、容体が悪化し入院、さらに9月には意識もはっきりしなくなり、12月ついに帰らぬ人となりました。眠るような穏やかな最期だった由。享年77歳でした。

先生は、大阪の生駒山の麓近くのお生まれで、大都市近郊ながら自然豊かな環境で育ちました。特に魚類などの淡水生物に興味を持ったのはその頃からでしょう。それが嵩じて北海道大学水産学部に進学したのが1966年です。

卒業論文の研究室に生理学・生態学講座を選択しましたが、1970年、大学院ではワカサギ類の研究で有名な濱田敬吉教授の発生学・遺伝学講座に進学しました。北海道産の淡水カジカ類をテーマに、生態・生活史の分岐に関する研究に取り組みました。同テーマで1977年に博士号を取得しました。

博士課程修了の年、後藤先生は7月に北海道大学水産学部助手（発生学・遺伝学講座）に採用され、1986年に助教授、2006年には北海道大学北

方生物圏フィールド科学センター教授（水産学部兼任）に昇任し、2011年に定年退職しました。その後は2017年まで北海道教育大学函館校に特任教授、非常勤教員として奉職しました。卒業論文指導のほか、大学院では約40人の博士前期課程院生と15人の博士後期課程院生の研究指導を担いました。研究室メンバーと調査に明け暮れ、淡水カジカ類を始めとする北方性の回遊性淡水魚類の生態と生活史分岐の研究を行い、その適応や起源について、地誌的変遷や魚類相の形成史とのかかわりの中で解明しようと励みました。

1987年にその成果を北海道新聞社の記事に連載（20話）する機会を得て、それらを成書にしたのが前川光司・後藤 晃（著）「川の魚たちの歴史」（中央公論社、1982年）です。先生が35歳の時で、淡水魚類の生態・生活史研究への意気込みにあふれた若々しい著作で、学内外の後進を大いに啓発しました。

先生はこれまで共著・編著書、分担執筆の合計23件の専門書を執筆しています。学会誌に掲載された学術論文は117報（英文109報）あり。ほかに大学機関誌等の論文が20報、シンポジウムプロシーディング（査読付き）が7報、市販学術雑誌などへ掲載された総説が9報、依頼などによる調査報告書等が57件に及びます。研究遂行のため、後藤先生は外部研究資金を27件獲得しています。

調査研究に関して特筆すべきことは、極東アジアの調査を敢行したことです。国内外の研究者と外部資金を獲得し、1992年から2019年にかけては淡水カジカ類が適応放散した古代湖のバイカル湖の調査、また1994年から2009年にかけてはシベリアを含む極東アジアの調査を行い、日本の北方性淡水魚類の進化についての理解を深めました。

また、先生はその専門性と経験を活かし、様々な規模で自然学教育、生態系教育、河川環境教育、魚類学教育などの講演を行い、社会人教育・地

# 追悼寄稿

域教育に努力しました。さらに、深い見識に基づいて、環境省や国土交通省、北海道などの希少野生淡水魚類の保全に関する委員を数多く務め、環境行政に深く関わってきました。

魚類学の会員としては、評議員、編集委員、自然保護委員会委員、学会賞選考委員会委員などの要職につき、さらに副会長2年、会長を2年務めました。その貢献が認められ、2020年には日本魚類学会名誉会員になることが認めされました。

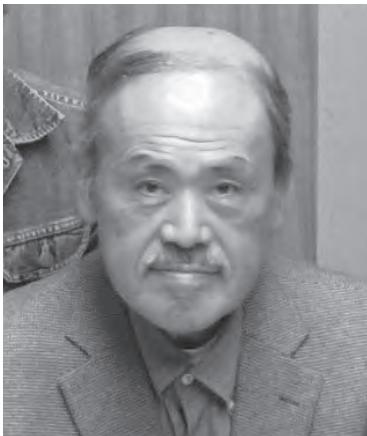
私は、1980年に北海道大学大学院水産学研究科博士課程に接ぎ木入学しました。生意気だった

私は大変扱いにくい学生ではなかったかと思います。しかし、後藤先生はそんな私をしかりつつ、いなしつつ、なだめつつ、上手に扱って下さいました。就職後も研究費等で常に気にかけていただき、博士取得も叶い、シベリアの大地に何度も立つことができました。すべて先生のおかげです。

ご病気やしがらみから解放された今、どうぞ北海道からシベリアの大地を思う存分駆け巡り、下界の私どもにはできない調査・研究をお続けくださるよう願ってやみません。

## 魚住 昭文 君(昭52ギ)を偲ぶ

池田 裕司(昭49ゾ)



本年(2025年:令和7年)1月半ば、魚住昭文君の突然の訃報を聞いて驚いた。正月に元気な様子の賀状を受取ったばかりだったのに。

彼が北大水産学部を卒業し石川県水産課に奉職して以来、私の高校の後輩ということもあり50年近い付き合いであった。高校時代は相撲部に在席し、恵迪寮に入ってからは応援団の団旗長としても活躍。その体躯に相応しい豪快な言動により皆さんから愛された存在であった。

私が水産団体を追われ、中小手企業診断士として独立せざるを得なくなった時にも「豊かな漁村づくり計画策定事業」のチーフコンサルタントとして起用してくれるなど何かと応援してくれたことは忘れられない。

また、北水同窓会石川県支部の会合においても、締めの寮歌、水産放浪歌、そして校歌斎唱時には彼の口上と音頭が長年にわたり続けられ、世代を超えて同窓各位に親しまれてきた。石川県水産課退職後は、水産関係企業の支援を続けながら、本部同窓会や全国寮歌祭などにも積極的に参加し今や当地でも数少なくなった旧恵迪寮(南寮)出身者として全国的な交流を深めていた。

一昨年(2023年:令和5年)10月の前回石川県支部同窓会にて彼に支部長をバトンタッチし、本年秋には晴れて新しい石川県支部長として支部同窓会を主催する予定だっただけに残念でならない。

通夜・葬儀では寮歌や校歌のBGMが流され、彼の母校や恵迪寮に対する思いをあらためて感じさせられた。今はただ、彼の冥福を祈るばかりである。

# 令和7年度発行の 新しい「北水同窓会名簿」の御紹介

幹事長 高津 哲也

令和6年5月25日に開催された第102回北水同窓会定期総会でお認めいただいた、新しい名簿の発行についてご紹介いたします。今回から名簿は、会費とは別に購入する形となります(送料・税込み¥5,000)。ただし会費をまとめ払いをすると、初回は無料で進呈いたします(同封の払込書兼チラシをご覧ください)。完成・発送は令和8年2月です。

名簿の体裁は、サイズがB5からA4に変更となり、記載事項は基本的に従来と同じです。発行頻度は3~4年に1回になります。令和7年5月にまず、委託先の株式会社サラトから、名簿記載内容の確認の往復はがきが皆様のお手元に届きますので、忘れないうちに内容をご確認・ご返送ください。名簿情報はサラトによって修正後、同窓会本部にも転送・更新され、従来通り、本同窓会と北大の活動にのみ活用されます。またこの往復はがきで、名簿の購入を申し込むことができます。また名簿発行の協賛金の募集、名簿広告の募集も行われます。

また新たに、名簿にはQRコードやURLが掲載され、WEB上で一部の会員情報が検索できるようになります(このWEB検索も名簿本文と同様に、掲載項目は従来通りご自分で設定できます。ただし悪用防止のため、町名や番地は検索できません。またセキュリティの高いシステムで管理されます)。詳細は下記をご覧ください。

最後に、新しい名簿の発行に皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

このデータは名簿発行時のものです。				
現姓	旧姓	名	索引記号	掲載頁
高津		博	旧職員	0
岡		次郎	旧職員	0
細井		正武	旧職員	0
松原		玲子	旧職員	0

1 / 1 ページ

## WEB検索の概要

PCやスマートフォンで会員情報の概要が閲覧できます。ただしWEB検索では名簿とは異なり、町名や番地は表示されません。

- 検索前と、検索結果のイメージは図をご覧ください。
- IDとパスワードでログインに成功すると、「勤務先別」「住所別」に検索できます。名簿の掲載ページが掲載されますので、詳細は名簿をご覧ください。

WEB検索データは、次の名簿発行まで更新されません(同窓会本部のデータは随時更新)。

## 会員死亡通知

山田 正 (昭16ヨ)	令和6年 8月 3日	ご家族様より
本田 信夫 (昭19ゾ)	令和6年10月30日	ご家族様より
堀 喜四男 (昭20ギ)	平成27年12月27日	ご家族様より
新井 弘久 (昭23ギ)	令和6年11月28日	及川 晋(昭56ギ)様より
内藤 政治 (昭23ギ)	令和6年 5月15日	ご家族様より
三輪 和夫 (昭23エ)	令和7年 2月 5日	ご家族様より
野田 静夫 (昭25ギ)	令和6年 3月 2日	ご家族様より
佐川 徳雄 (昭26エ)	不明(10年以上前)	宮城県支部様より
堀内 一成 (昭28セ)	令和6年 7月14日	ご家族様より
新井 健一 (昭28セ)	令和7年 1月30日	北海道新聞より
松原 福丸 (昭29ギ)	令和6年 7月25日	ご家族様より
北澤 成男 (昭29ゾ)	令和6年 9月21日	ご担当司法書士様より
大島 栄一 (昭30エ)	令和6年10月30日	ご家族様より
新井 勝巳 (昭34ギ)	令和6年 8月15日	ご家族様より
荒木 順 (昭34エ)	令和6年 5月22日	ご家族様より
杉山登喜志 (昭34セ)	令和6年 8月15日	ご家族様より
長田 博光 (昭34セ)	令和7年 1月17日	ご家族様より
伊藤 哲一 (昭35エ)	令和7年 1月22日	ご家族様より
田畠 善行 (昭37ギ)	令和5年 7月 9日	ご家族様より
村田 清生 (昭37ギ)	令和6年 4月25日	ご家族様より
山田 健 (昭39セ)	令和6年 3月13日	ご家族様より
野口 卓三 (昭40ギ)	令和6年 9月26日	奥野 信博(昭40エ)様より

**会員死亡通知**

犬丸 澄夫	(昭40セ)	令和4年11月28日	金曾 裕一(昭40セ)様より
小飼 洋三	(昭40セ)	令和6年 9月27日	金曾 裕一(昭40セ)様より
鶴田 地彦	(昭41エ)	令和6年 5月 4日	ご家族様より
兵藤 熱	(昭42ギ)	令和6年	山本勝太郎(昭42ギ)様より
宇野 史郎	(昭44ギ)	令和6年 8月21日	ご家族様より
岩田 伸康	(昭44食)	令和5年 9月15日	ご家族様より
鈴木 信一	(昭44食)	令和5年12月 8日	ご家族様より
高畠 俊弘	(昭44食)	令和6年 9月25日	ご家族様より
本庄 章	(昭45ギ)	令和5年 8月23日	ご家族様より
後藤 晃	(昭45ゾ)	令和6年12月12日	学内より
浜田 三郎	(昭46化)	令和6年 7月 7日	ご家族様より
下川千代照	(昭47ギ)	令和6年 8月13日	ご家族様より
八重樫 満	(昭47ギ)	令和6年11月23日	池上 治男(昭47ギ)様より
小林 好男	(昭48ギ)	令和6年12月 1日	清水 實(昭48ギ)様より
渡辺 安廣	(昭49ギ)	令和6年11月28日	中多 章文(昭62ギ)様より
魚住 昭文	(昭52ギ)	令和7年 1月16日	ご家族様より
松岡 達郎	(昭52ギ)	令和6年 5月13日	鹿児島県支部様より
苅田 豊嘉	(昭57ゾ)	令和6年 9月30日	高橋 和寛(昭57ゾ)様より
本村 良成	(平元化)	令和6年 2月 3日	ご家族様より
服部 努	(平元ゾ)	令和5年 2月	成松 庸二(平5ゾ)様より
村田 高勇	(平5 化)	令和6年 1月 6日	ご家族様より

## □学位取得者【令和6年度9月取得】

石 林艶 Studies on the potential utilization of notochord type II collagen derived from bester sturgeon *Huso huso* × *Acipenser ruthenus* in cartilage tissue engineering  
(ベステルチョウザメ脊索由来II型コラーゲンの軟骨組織工学への応用に関する研究)

## □会員異動

○令和6年8月1日付 採用

亀井 佳彦 付属練習船准教授を同教授に採用

○令和7年1月1日付 採用

趙 佳賢 大学院水産科学研究院助教を同准教授に採用

駿河谷諒平 大学院水産科学研究院助教に採用

## | 親 | 潮 | 投 | 稿 | 規 | 定 |

### 【寄稿、支部・会員便り、会員の受賞、ご案内など】

一つの投稿につきA4版・1ページ(2000字程度)までとする。この制限以上の長文あるいは連載を希望される場合は2号分までとする。写真を入れる場合、その分の文字数が減る。また写真はホームページに掲載することもできる。原稿は、同窓会宛に封書で郵送するか、同窓会のメール宛に送付することとする。

### 【同窓生の声】

各種活動や出版物の告知・紹介、本誌への感想など。個人的な連絡は対象とせず、1記事につき300字以内。同窓会あてのメール(hokusualumni@gmail.com)にて受け付けます。写真は入れられません。

## [編集後記]

今回の特集は、「北海道大学総合博物館分館 水産科学館の歩み」と題して今村央先生にご執筆頂きました。水産科学館が水産学部とともに歩んできた歴史が大変よく分かる内容ですので、ぜひご一読ください。

次号「親潮」令和7年度1号(通算325号)の原稿締め切りは2025年7月10日とさせていただきます。寄稿はメール(hokusualumin@gmail.com)にて受け付けております。その他、支部報告や同期会報告、著書の紹介など、多くの原稿をご投稿くださいますようお願い申し上げます。なお、親潮では同窓の方々の交流形態として「同窓生の声」の広場を設けております。また、本誌に対するご意見やご感想などもお寄せください。詳しくは投稿規定をご参照ください。

また、支部総会や同期会の開催時の写真や開催案内を北水同窓会のホームページ(<http://hokusui.net/>)にて掲載しておりますので、ぜひ御覧ください。

編集幹事／和田 哲 (平4ゾ)

令和7年3月発行

## 北水同窓会

〒041-8611 函館市港町3-1-1

TEL & FAX.0138-42-3681

E-mail:hokusualumni@gmail.com

相続 離婚 債務整理 交通事故 労働問題 会社顧問

相談料は全て無料です

# 吉原法律事務所

札幌弁護士会 弁護士 吉原美智世（昭和48年増殖学科卒業）

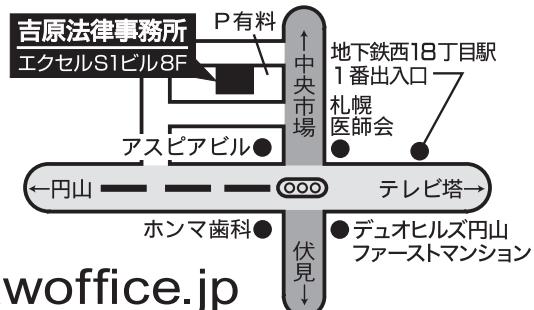
お気軽にお問い合わせ下さい **TEL 622-7963 FAX 622-8414**

札幌市中央区大通西20丁目2-20  
(エクセルS1ビル8F)

## 交通

東西線西18丁目地下鉄1番出口

E-mail [lawyer@yoshihara-lawoffice.jp](mailto:lawyer@yoshihara-lawoffice.jp)



営業時間においてになれない方はご相談下さい。

人工魚礁による水産資源の保護・増殖に貢献します

## 海洋土木株式会社

〒142-0043 東京都品川区二葉2-1 1-5

代表取締役 吹原正彦

専務取締役 幡宮輝雄 (57歳)

青森営業所長 山口伸治 (49才)



FP魚礁

カルベース付き  
FP 1.5G

オクトム

増毛マツイ・ミズダコ

TV CM 絶賛放映中！  
「どさんこ松前漬」 2023年2月発売



株式会社 竹田食品

代表取締役 竹田 寿広

営業所：札幌・東京・大阪・福岡

本社工場：北海道函館市浅野町3番10号

TEL : (0138) 43-1110(代)

HP : <https://takeda.hakodate.jp/>

# 魚に感謝したい。

魚の価値を真剣に見極め、求められる人に求められる形で届けていく。  
魚を大事にする思いがあれば、水産業は、まだまだ、世の中に貢献していける。  
釣八は、海と人が共存できる水産業を目指しています。



株式会社釣八 代表取締役社 釣見泰之(昭59漁)

【水産学部卒業社員】

水井 修(S58 漁) 太田 松太郎(S59 漁) 橋本 浩典(S59 漁) 倉部 徹(S60 漁) 土井 倫行(S60 漁)

本社

〒104-0042 東京都中央区入船一丁目2番1号 PMO八丁堀IV8F

TEL:03-3297-8883 FAX:03-3297-8885

支社

八戸支店(青森県) 銚子支店(千葉県) 大阪支店(大阪府) 福岡支店(福岡県)

関連会社

(株)釣十(豊洲/マグロ仲卸) (株)いかめし阿部商店 札幌蟹販株式会社  
フィッシング8(ロサンゼルス) 大連釣八(中国/水産加工)



Global\* Staffing

## 外国人人材を あなたの会社にご紹介します。

(株)グローバルスタッフィングは、ミャンマーの教育・送り出し機関である  
アンダマンエイト社と共に、優秀な海外人材を募集・教育し、ご紹介しています。  
水産・食品業界を熟知した私たちが、最適なマッチングをお約束いたします。

株式会社グローバルスタッフィング (釣八グループ:人材支援機関)

代表取締役社長 釣見泰之(昭59漁) 取締役副社長 橋本浩典(昭59漁)



本社

〒104-0042 東京都中央区入船一丁目2番1号 PMO八丁堀IV8F  
TEL:03-6228-3078 FAX:03-6228-3578

アンダマンエイト AndamanEight Co.,Ltd (釣八グループ:人材送り出し機関)

No.55A, Khayayyeikthar St,Mingalardon Garden City, Mingalardon,Yangon

